

活動レポート

神戸っ子応援団を知ろう

神戸っ子応援団への理解を深めようと1月16日、拡大版「学習支援者の集い」（写真）が開かれました。地域で子供たちの健全な育成を図ろうという「神戸っ子応援団」の制度は23年度に発足。25年度から本格的にスタートします。学習支援委員会でもすでに2回、テーマとして取り上げていま



すが「分かりにくい。支援委員会との関係はどうなるのか」といった声が多く、今回の勉強会になったもの

です。この日は、市教委学習課とこども家庭局青少年課の担当者8人を招いて講演と現状報告、質疑が行われ〈わ〉の参加者50人(支援委員と区会関係者)が熱心に耳を傾けました。

応援団の仕組みは、中学校区ごとに地域を分け、地域コーディネーターが学校（の要望）とボランティアをつなぎ、学校行事や学習支援、伝統文化の継承に取り組むもので、対象は小学生～中学生です。すでに応援団が発足している東灘区と北区の推進委員から活動の現状が紹介されました。

3時間に及んだ勉強会ででしたが、市教委側の説明は理念や組織の説明に終始。参加者の疑問・思いと噛み合わなかったようです。特に①現在の学習支援

委員会はどうなるのか。②支援要請は誰からどういうルートでくるのか。③応援団と〈わ〉の関係は？

といった具体的な疑問への回答はなく、市教委側も現状をつかんでいない様子がありました。

〈わ〉としても、もう2、3回は勉強会を開く必要があります。（広報・南形徹）

●25年度の学習支援委員長は、加藤勇次から西田圭一（生9）に交替します。

〈わ〉に4サークルが誕生

4月から〈わ〉の傘下に4つのサークルが誕生。合計61サークルになりました。環境部会に所属する次の2つは17期グループ学習のメンバーが活動を継続しようと結成したものです。

▽チームたんすのこやし（代表・藤本明美 ☎743-1608）は古着をリメイクして再活用するグループ。カレッジ2F階段横に回収ボックスを設置、協力を呼びかけています。環境未来館でリメイク講座も開催する予定。会員5人。

▽ハチドリ（代表・安井敏夫 ☎451-2196）は神戸の川を美しく、をモットーに福田川（垂水区）などでクリーン活動を行います。他の愛護団体とも連携し、提案もしていくということです。会員12人。

▽生きがい部会に所属する「東灘ボランティアガイドの会」（代表・宮田幸長 ☎431-1702）は、観光客に東灘区内の浜街道や酒蔵を巡って地域の魅力を再発見してもらおうというもので、ガイドの勉強から始める予定です。会員は9人。

▽福祉部会に所属する「エンジェル支援の会」（代表・辰巳陽子 ☎080-6156-1483）は、手芸品を製作・販売して、世界の恵まれない子供たちを助けようと生環17期の仲間呼びかけて結成しました。会員18人。

中学生支援などが課題

グループ〈わ〉の学習支援体制が、すぐに改編を迫られることはありませんが、子どもを対象としたボランティア活動では「神戸っ子応援団」を視野に入れた肌理細かな対応が求められます。

【学習支援委員会】〈わ〉の学習支援案内を校長会経由で全小学校に連絡しているが、26年度からは「応援団」経由に改めた方が実効的です。支援対象には中学校も含まれるので、中学生への支援も検討すべきです。

【本部・区会・部会でのイベント】地域でイベントを実施する際、案内状は関係地域の「応援団」にも出す方がいいでしょう。地域の行事運営に子

供たちを関わらせることも「応援団」の目的の一つですから、子供たちに協力してもらいたい方法かもしれません。

【区会の学校支援】各地域で応援団組織が機能してくると、区会への学校支援要請が増えることが予想されます。区会のメンバーに予めアンケートを実施し、支援項目ごとに支援可能者・支援希望校などを把握しておき、支援要請に即応できる体制づくりが望ましいと思います。

以上が、さしあたって対応すべき課題と考えていますが、今後とも「神戸っ子応援団」の動きを注視しながら学習支援活動に取り組んでいきたいと思っています。

（学習支援委員長 加藤勇治・北区会）